

「尾瀬はるか」

個人会員 T・H

猛暑の続く8月最後の週末、一泊二日の予定で尾瀬に向かった。

予想した通り高速道路は渋滞し、予定より遅れてバスは、鳩待峠に到着した。

軽い昼飯をそそくさと済ませ私達は、峠を出発し山の鼻に向かった。

山の鼻は尾瀬ヶ原の入り口で、約一時間の道程である。

天気予報では、午後には弱い雨があるという。

日頃の運動不足もあり、途中で小休止をとりながらもほぼ予定通りに山の鼻に到着した。

その直後、われらを待っていたかのように雨が落ちてきた。

それは、あつという間に雷を伴う大雨になった。

登山道は泥流と化し、大勢のハイカーが足止めを食らった。

夕立だから数十分でやむだろうと、たかを、くくって小屋の屋根から落ちる滝のよう

な雨だれに見とれていた。

だが、一向に雨の止む気配がない。これ以上降られると小屋の夕飯には間に合わないのでは、と気にかかり始めた頃、空が明るくなりスーと雨が上がった。

私達は、尾瀬ヶ原へと飛び出した。

止むのを待ち切れず豪雨の中を多くのハイカーが先を急いだせいか木道にはハイカーの姿は、ほとんどない。

雨上がりの湿原は、水分をいっぱい含んだ木や草が陽の光を浴びて輝いていた。

湿り気を帯びた風が頬をなでるのが心地よい。

行く手には、一筋の木道が湿原をどこまでも伸び、その先は、黒々とした燧岳がかまえている。

木道に人影はなく、尾瀬ヶ原にいるのは私達だけのようだ。

四方を山に囲まれた、この大湿原は、



まるで下界から隔絶された自然の揺かごだ。

今、私は揺りかごの中でまどろんでいる子供だろうか。なんとという心地よさであるう。この豊かな自然を未来に引き継がなければと思った。

少し足の疲労を感じ始めた頃、遠くの森の中に目指す小屋の屋根が見えてきた。

見上げれば燧岳の肩に小さな虹が架かっていた。

納得、安心のできる管理

- ☆ 総合管理の受託から自主管理の応援まで
- ☆ 管理組合のニーズに合った管理システム
- ☆ 木目の細かい対応が出来ます

日本高層管財株式会社

本社東京都渋谷区代々木1-19-12新代々木ビル4階 〒151-0053
TEL 03-5388-4471(代) FAX 03-5388-6463

